

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

電気・電子情報工学科 長谷川 達人

2025 年度の優秀教員に選定いただき大変光栄に思います。2024 年度は吉田先生に完敗しており、1 年あけての奪取となりました。これを踏まえ、何故去年はダメだったのかを考察することで、タイトル（工夫と抱負）を回収できればと思います。

まず、昨年何故完敗したのか？を当事者の学生数名に伺ってみました。単純に吉田先生が素晴らしいという意見が大半でしたが、興味深い意見として「単純接触効果じゃない？」がありました。要するに講義で顔を合わせる機会が多いほど…という考察です。これを踏まえて考えてみると、去年は学会出張が多く、3 年後期の講義の何度かをオンデマンドで対応させて頂くことがあり、これが良くなかったのかもしれない。本年度は学部講義はすべて対面開催とした結果、単純接触効果が実ったのか優秀教員を再び頂くこととなりました。なお、詳細は 2023 等の過去のレポートを参照いただきたいのですが、私の講義はリアルタイムコメントスクロールシステム (<https://www.mirai-kougaku.jp/lesson/pages/65.php>) の導入もあり、対面実施の方が受講者満足度が高まりやすいのだと思います。

せっかくですので、この場をお借りして上記システム導入をおすすめさせていただきます。私は独自開発のシステムを使っていますが、実はパパパコメント (<https://papapac.com/>) という外部サービスを使えば、割と手軽に使えます。学生にスマホなどから URL アクセスして頂く必要がある点はやや手間で、実は導入するだけでは意外とコメントがもらえなかったりもします。そこで、既に 6 年ほど使い続けておりシステム利用に慣れている私が思うコツをお伝えします。重要なのはコメント投稿の心理的ハードルを極力下げることです。私の場合は、授業開始時に一斉にログインするよう伝え、講義の前半でちょっとしたアンケートを取ってみると意外と皆答えてくれます。タメ口で OK とし、質問だけでなくしょうもない一言も OK と説明した上で、講義内に適宜議論を入れてコメントを促したり、練習問題解けた人はコメントしてねって伝えたり、うまく誘導を繰り返すことで、徐々にコメントが増えます。最近では、何も言わずともコメントが来て嬉しい反面、雑談コメントが増えすぎて無視するのに一苦労という問題もあります笑。ただ、やはりリアルタイム双方向で授業が進むのは、学生も楽しそうにしてくれますし、授業をする側としてもリアクションがわかって楽しく授業ができて非常に良いです。

もう一点別の工夫として、ChatGPT で仮想試験問題を作成して公開するというのを今年新たに試してみました。例年は過去問 1 年分を配布しているのですが、それよりも ChatGPT とのやり取り（プロンプト）を含めて、共有（右上にボタンがあります）機能で

会話すべてを共有することで、出題傾向や LLM を使った自学を学べたのではないかと考えています。もう少し効果のほどを検証してみたいと思っています。

最後になりましたが、本賞を受賞できたことは、様々な支援を頂いた学科を始めとする周囲の皆様のご助力のおかげです。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。